

## 第12回 日本視機能看護学会会員情報交換会報告



### ■テーマ：ロービジョンケアにおける看護師の役割について ～院内連携の中で求められる役割と必要と考える役割とは～

■日時：2022年11月19日（土）14：00～15：30

■方法：ZOOMによる意見交換会

■参加人数：16名（日本視機能看護学会役員含む）

■アドバイザー

高橋 広先生（北九州市福祉事業団 北九州市立総合療育センター眼科）

大音清香（日本視機能看護学会名誉理事長）

ロービジョンケアにおける看護師の役割とは何かというテーマにて、これまで高橋広先生のセミナーを初回とし、その後意見交換会を進めてまいりました。

このテーマについては、会員の皆様も非常に関心が高く、また参加者の皆様から積極的なご意見を頂き、自院での取り組みを述べつつ他院の取り組みを知り、意見交換を行う中で次の課題に繋がる意見交換会として継続してまいりました。

高橋広先生よりお声掛けを頂き、ロービジョン学会初代理事長の田淵昭雄先生もご参加頂き、看護師に向けたメッセージを頂きました。田淵先生には第38回日本視機能看護学会学術総会でも、特別講演をお願いしており、会員の皆様の更なる学びに繋がる機会となるかと思えます。

また今回高橋広先生のご提案により、ロービジョンケアにおける役割のみならず、眼科医療において看護師が求められている役割の現状と、なすべきと考える役割という視点で参加者の方に事前アンケートを行い、眼科医療の実情と看護師の新たな課題を知る事ができました。

近年では、タスクシフトの導入もあり、メディカルクラークがチーム医療の中に参画している施設も多く見られます。よって、施設の体制毎に求められている看護師の役割も違いますが、本来看護師としてなすべき役割と考えている、「患者の不安に寄り添う看護」における具体的な関わりを実践していく事ができるためにも、来年再度セミナーおよび意見交換会を企画していく予定です。今後も多くの会員の皆様のご参加をお待ちいたしております。

### 【事前アンケートの結果】

